

# 擧

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより

文責：内田 淳

令和6年 3月8日(金) Vol.43

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

「仲間も、自分も、大切にしよう」

「あきらめずに、取り組もう」



【ホームページへ】

## 卒業式に向かって

笑い感動の「3送会」から早一週間。全校を擧げて卒業式に向かっていきます。3年生は、既に1日(金)から練習を始めており、立つ・座るなどの所作を確認しました。先生から「卒業を祝う儀式なので、姿勢や行動に気を配りましょう」とのお話があり、引き締まった雰囲気を取り組んでいました。



【速すぎず遅すぎず、堂々と胸を張って、入場の練習から始まります】



【号令がなくても、タイミングを合わせて礼をします】



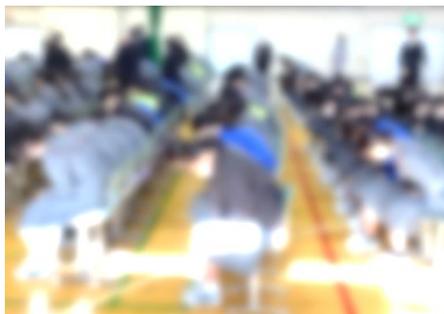
【呼名、返事からの卒業証書の授与。一番の見せ場を、まずは「エアー」で練習】

行動制限がなくなってから、初めての卒業式。9カ年もの長い義務教育を終え、自ら決定した新しい進路に向かって歩き出す3年生の門出を、みんなで祝福したいものです。1、2年生の皆さんは、厳かで温かい卒業式を、全力でつくりあげましょう。3年生の皆さんは、清々しく凜々しい姿が、次の世代に受け継がれるように、全力で臨んでください。

式での礼法の他に、合唱の練習も、頑張っています。人によっては、高校に進学して以後、合唱に取り組む機会がなかった、ということもあります。悔いのない歌声を、体育館いっぱいに響かせてほしいです。1、2年生は、その「エール」を受け止めて、さらに力を発揮できることでしょ。



【まずは身だしなみチェック。詰め襟に手をやってホックを締めています】



【在校生の座礼。さすがの2年生は角度もタイミングも上手にそろっています】



【拍手の練習も本気で取り組めば、本番でかなりの音圧が出せるでしょう】

## 未来の自分のために

4日(月)、2年生は「実力テスト」に臨みました。これまで学習してきたことを、どれだけ習得できているかを客観的に測り、自分の得意・不得意を明らかにし、今後の家庭学習などに活用するのがねらいです。出題範囲は習ったことばかりですが、英語や国語は、教科書には載っていない文章が出題されるので、戸惑う人もいたかもしれません。

「実力テストって言うぐらいだから、何も準備しないで受けるのが、真の実力だよ」などとうそぶいて、勉強から逃げていた時期が、私にもありました。

しかし、ここでの「実力」とは、頑張っ、頑張っ、頑張っ抜いて発揮できる「最大限の力」である、ということは、言うまでも



【1時間目の国語から始まり、昼食を挟んで5時間目までテスト漬け。頑張りました】

ないことでしょう。

苦手なこと、分からないことに正面から向き合うのは、簡単なことではありませんが、取り組むなら、今ですよ！今！今なのです！

今からなら、十分に間に合います。多くの3年生が、受験勉強を振り返って「もっと早くから、取りかかっていたらよかった」「毎日、少しずつでも勉強していればよかった」と話しています。

テストの結果から、似たような問題を解き直したり、教科の先生にもう一度質問しに行ったり……日々の学習を工夫してみましょう。



【学力の他に、気力、体力、集中力も重要です。日頃の積み重ねがものを言います】

## あたりまえの「有り難さ」

今から13年前の、平成23年3月11日、午後2時46分に、東北地方を中心に発生した「東日本大震災」は、最大震度7を記録しました。震度7は、次のような被害の目安が示されています。

- 立っていることが、できないほどの揺れ
- 家具のほとんどが、倒れたり飛んだりする
- 窓ガラスや壁のタイルが、壊れる など

この災害は、生命や財産だけでなく、多くの人々の生活に、様々な影響を与えました。私が体験した、ほんの一例を紹介します。

### ◇電気、ガス、水道が止まった。

発電所が被災したため、電気が十分に供給できず、暖房や照明などに大きな影響がありました。インターネットも繋がらなくなり、スマホも充電ができず、家族同士でも連絡が取れなくなりました。もちろん、電車も動きません。道路の信号機も、消えたままでした。

### ◇道路や線路が壊れて、自動車や電車が走れなくなった。

地割れ、液状化、地盤沈下などにより、交通網がマヒしました。被災者は避難できなくなり、救助隊やボランティアは、被災地に近づくことができませんでした。壊れていない道路に自動車が集中し、大渋滞が起きました。

### ◇スーパーやコンビニなど、あらゆる店から、商品がなくなった。

トラックなどが走れなくなったので、お店の商品は、ほとんど空っぽ。レストランなども、食材が届かないので調理ができず、営業できませんでした。新鮮な食材が手に入らず、家庭でも苦労しました。ガソリンスタンドも販売が制限され、給油を待つ渋滞ができました。

「いつでも、電気が使えて、水が出て、温かいお風呂に入れる」「店に物があふれていて、いつでも買い物や食事ができる」この「あたりまえの生活」とは、実は、とても貴重なものなのです。私たち一人ひとりが、「あたりまえの生活」ができることに感謝して生活しなくては、とあらためて思います。

3月11日は、13年前の大災害を、日本中で思い、午後2時46分に合わせて、1分間、目を閉じて、静かに祈り、思いやり、今の生活に感謝し、これからも頑張ることを誓う日なのです。この日の意味を、いつまでも、大切に受け継ぎたいものです。

## 「性」と「生」を学んで

6日(水)、3年生は「命の授業」と題して、助産師の方を講師にお迎えして、講話を聞きました。大人の階段を上りつつある生徒たちは、互いを尊重する人間関係づくりや、感染症や性暴力などのリスク、妊娠・出産・育児の意義などについて、様々な内容を学びました。

生徒たちが、この授業で分かったことを生かして、自分も仲間も同様に大切にし、素敵な大人になれるよう心から祈っています。

また、多くの生徒が、今日まで自分が「育ててもらったこと・生かされてきたこと」に気付くことができました。「自分が生まれた頃のこと、興味をもった」と感想文を書いた生徒も、少なくありませんでした。折に触れて、ご家庭でも、話題にしてみてもいいのではないでしょうか。

保護者の皆さんが実体験として話す、たいへんだったことや、うれしかったことなど……子どもたちは、しみじみと耳を傾けることと思います。



【講師の先生が抱っこしている新生児人形は、重さ3kg。生徒も代わる代わる抱っこして、戸惑ったり、にこにこしたりしていました】